

学校新聞特派員

音楽姉妹都市竹田市

8月5日から7日までの3日間、豊田中学校3年の齋藤拓美さん、高野諒哉さん、佐藤真帆さんの3人が「学校新聞特派員」として音楽姉妹都市の大分県竹田市取材しました。3人がまとめた報告書の中から、一部をご紹介します。

難攻不落の名城 岡城

海抜325メートルの台地、岡城跡。その広さは実面積で100万平方メートル、それは東京ドームの22個分にあたります。豊後国の豪族、緒方惟栄が源

頼朝に追われた源義経を迎えるために築城したのが始まりといわれ、大野川の支流、稲葉川と白滝川が合流する間の舌状台地上に築かれた、周囲が山や川に囲まれている天然の要塞です。

そして、岡城は作曲家「滝廉太郎」の名曲「荒城の月」のモデルになった城ともいわ

れております。僕が岡城に行ってみて心に残ったことは、石垣しか残っていないのにすごい迫力を感じたことです。これは城のある場所と、そこから見える風景と、地形を利用した戦い方ができるような細部にまでこだわった城の造りがそう感じさせているのだと思います。

(齋藤拓美)



▲岡城跡見学の様子

滝廉太郎について

滝廉太郎は1879年8月24日、父吉弘と母マサの8人兄弟の長男として東京で生まれました。父親が地方官だったため、神奈川県や富山県、そして大分県竹田市など、各地を回っていました。竹田市で暮らしたのは約2年半という短い期間でしたが、この経験をもとに、岡城をイメージした名曲「荒城の月」などの曲が生まりました。

荒城の月は、今では編曲された部分もありますが、訪れた滝廉太郎記念館では、毎週木曜日に原曲で荒城の月を



▲滝廉太郎記念館前

歌うとお聞きしました。いつまでも、原曲は忘れてはいけなとおっしゃっていました。23歳という若さでこの世を去った滝廉太郎が最後に作曲した「憾」という曲をドイツ語で訳してみると、「心残り」という意味になり、これだけの名曲を残しても、この若さで亡くなれば、心残りもあるのだなと思いました。

(高野諒哉)

学校新聞特派員を終えて

大分県は本当に自然が豊かな所で、中野市と似ている所がたくさんありました。その環境にすぐに慣れてしまいました。

竹田市行って一番思い出に残ったことは、久住中学校での交流会です。広島に原子爆弾が投下された8月6日に、竹田市では全部の小中学校で「平和授業」という学習を行っており、私たちも参加させてもらいました。

平和授業では、長崎で原子爆弾が投下された翌日の新聞記事について話し合いました。その新聞には、国民を安



▲久住中学校の生徒との交流

心させるために原子爆弾の被害などを小さく見せかけるような記事がありました。私はその新聞を見て、嘘の情報を流してはいけないと思いました。このようなことを踏まえて、これからも戦争や原子爆弾について学びたいと思います。それと同時に二度とこのようなことが起きないように心にとめておきたいと思

(佐藤真帆)

被爆地派遣 〜広島市〜

8月4日から6日までの3日間、高社中学校3年生の松崎雄輔さん、土屋大河さん、藤沢菜緒さん、吉家雪乃さんの4人が「平和使節」として、被爆地の広島県広島市を訪問しました。4人がまとめた報告書の中から、一部をご紹介します。

一日目

まず向かったのが、「原爆の子の像」です。事前学習の中で、「広島島の歴史」に焦点をあて、学習していく中で、私たちにできる事は何かということを考え、生徒会を中心に千羽鶴を折り、平和への願いを込め、原爆の子の像へ奉納しました。

次に、広島平和記念資料館へ行きました。広島平和記念資料館では、被爆者の遺品、被爆の惨状を示す写真や資料が展示され、また、広島市の被爆前後の歩みや核時代の状況が紹介されていました。資料



▲原爆の子の像

館で見えたものは想像を超えていました。実際に被爆した方が当時身につけていた服や小物。それらが目の前に展示してあり衝撃的でした。でも、私たちは、その辛い戦争のことを伝えていかなければいけないんだと強く思いました。

原爆が投下された後、被爆した人たちのため全国の人たちが動いていたことを知り、人の団結力のすごさを知りました。原爆ドームでは、原爆の破壊力と無残さをよりリアルに感じることができました。

二日目

午前中は、翠町中学校との平和交流会がありました。翠町中学校は、全校で平和学習をしっかりと積み重ねていて、戦争や平和に対する気持ちや考えの違いに驚くとともに、自分たちの考えの甘さに気付かされました。平和交流



▲翠町中学校と連帯旗の交換

会の中で、「高社中学校・翠町中学校平和アピール」というものがあり、両校がそれぞれ想いを込めて創り上げた連帯旗を交換しました。連帯旗交換を通して、仲が深まるとともに、両校の想いも知る良い機会となりました。自分たちと広島の中学生では、戦争とか原爆、今日にいたるまでの歴史などについての意識や学習に大きな違いがあると感

じました。同じ日本に住んでいるからこそ、しっかりとみんなに伝えていかなければならないと思えました。

午後は、ヒロシマ青少年平和の集いに参加し、川本省三さんによる被爆体験証言のお話と、様々な県の人たちとグループを組んでワークショップを行いました。自分たちができることは小さい事かもしれないけれど、こうやって平和について考えたり、意見を伝えあったりすることはとても大切なことだと思いました。

私たちのグループは、「2045年の世界地図」を作りしました。世界の国々の問題が解決され、平和な未来になつてほしいという願いを込めて地図を完成させました。一人一人の平和に対する意識の高さに驚き、同じ中学生でも思っていることや感じていることが違い、たくさん意見交換ができて良かったです。

三日目

広島平和記念式典に参加しました。朝早くから多くの人たちが集まる中、原爆死没者慰霊碑前にてお祈りと献花を行いました。式典では、広島市長による平和宣言や、子ども代表による平和への誓いなど、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現が訴えられていました。自分たちが生まれる前に起きたことなのに、全国の人たちが集まり、原爆や戦争の悲惨さと平和について考えを深められる機会があることに感謝したいと思いました。

三日間を振り返って

世界の現状を知り、同世代の中学生と交流を通して、実際に広島に来て、「見て」、「感じて」、「考えた」ことを仲間・学校・地域に伝えていくことが大切だと思いました。また、「核兵器のない平和な社会の実現」に向けて、私たちが平和についての考えを深めていくことも大切だと感じました。今回このような貴重な機会を与えてくださった方々に心から感謝いたします。そして、最後に、「平和」とは何か。これからも問い続けていきたいと思えます。



▲ワークショップの様子



▲原爆ドーム